

九州大学大学院における医療コミュニケーション学教育について

荒木 登茂子 萩原 明人

九州大学 大学院医学研究院 教授

抄録

近年のわが国における医療は、少子・高齢化の進行に伴う医療構造の変化、医療技術の高度化・専門分化、医療に対する国民意識の変化に伴い様々な課題に直面している。そのような中で、従来の医療現場は細分化された診療科や職種ごとの分業で構成される医療に従事してきた。しかし、近年の医療構造の変化に伴い、政策・経営・管理・コミュニケーション等の医療を総合的・横断的に理解のうえ、問題を見出し、その解決にあたる医療専門家が求められている。我々が所属する医療経営管理学講座は、そのような人材の育成を目指して開設された。

講座は、医療政策、医療経営、医療管理および医療コミュニケーションの4分野で構成されている。教育体系は医療学専門科目群、共通基礎科目群、必須専門科目群、選択専門科目群からなり、医療コミュニケーション学に関する科目は、「医療コミュニケーション学1」「医療学コミュニケーション学1, 2」が必須専門科目群に、「医療コミュニケーション学2」「ケアコミュニケーション学」「病院コミュニケーション学」が選択専門科目群に配されている。

医療コミュニケーション能力は医療のあらゆる場面で必要とされる。医療の現場では新しい事象が絶えず生じており、守備範囲も広い。これらの問題に対処するうえで役に立つ医療コミュニケーションの知識や技法を効率的に教授するためには、カリキュラムの不断の見直しが必要と思われる。

はじめに

医療経営・管理学講座は2001年に九州大学大学院に専門大学院として開設された。開設の背景は、昨今の急激な医療の変化に対応するための医療の専門家を育成するためである。

近年のわが国における医療は、少子・高齢化の進行に伴う医療構造の変化、医療技術の高度化・専門分化、医療に対する国民意識の

変化、生命倫理上の諸問題など、環境は一層複雑化し、様々な課題に直面している。

そのような中で、従来の医療現場は、主として国家資格の取得者が、細分化された診療科や職種ごとの分業で構成される医療に従事してきた。しかし、近年の医療構造の変化に伴い、政策・経営・管理・コミュニケーション等の医療を総合的・横断的に理解のうえ、

問題を発見し、その解決にあたる医療専門家が求められている。我々が所属する医療経営管理学講座は、そのような人材の育成を目指して開設された。

医療経営・管理学講座で育成する人材とは、具体的には現実に存在する医療問題を解決するにあたって、目的を明確にし、具体的に対策を組み立て、結果を評価し改善するシステムを構築できる人材である。医療現場の具体的な問題に対して、測定、推計、設計によってPDCAサイクルを回して問題解決を可能にする能力の向上を図ること、またそれを現場に還元して、山積している多くの問題を解決し、現場を改善していく人材を育成することが本講座の目的である。

2. 医療経営・管理学講座の概要

医療経営・管理学講座の概要は図1に示すとおりである。

対象は社会人・学士・大学院生・外国人留学生である。終了時に医療経営・管理学修士（専門職）が与えられる。修了年限は2年間であるが、2005年から3年間の長期履修制度が導入された。開講形式は原則的に昼間であるが、一部の授業は夜間にも開講している。



図1 医療経営・管理学講座の概要

入学定員は20名である。資格を持った社会人入学生は図2のとおりである。学生のバックグラウンドは多彩で、職種により興味や関心が異なり、経営や行政に志向性がある学生もいて、必ずしも医療コミュニケーション分野を専攻するわけではない。また患者として以外には医療現場に触れたことがない非医療系の学生もいる。本講座は医学研究院に属しているために非医療系の学生は外科手術の見学や、医学部の講義の一部に参加できるようになっている。

資格をもった入学生(7期生まで)

医師	14
歯科医師	5
薬剤師	8
看護師、助産師、保健師	23
その他、医療関係職種	16
公認会計士等	2

図2 資格を持った社会人入学生

本講座の理念は、ビジョン、ミッション、ゴールとして図3のように示される。良質適切な医療を提供すると同時に、職員も誇りと満足を持って働く職場を作っていくことがもとめられる。それらを実現するためには経営効率の改善が基礎になる。専門分化した医療は時として縦割りになり、横の連携が不十分になりやすい。「安心・納得・一体感」を持った医療を提供するためには、医療者相互のコミュニケーションを図り、医療機関内部の統合・調整・組織化ができる職業人の育成が必要である。目的とするところは、経営効率や医療者相互のコミュニケーションの改善、医療者の過重労働や疲弊等のストレス、訴訟や医療事故に伴うコミュニケーションの問題等を解決するために、PDCAサイクルを回せる効果的なシステムを作ることである。



図3 医療経営・管理学講座の理念 ビジョン、ミッション、ゴール

医療経営・管理学講座の4つの分野と教育体系

本講座では医療コミュニケーション分野は他の4つの分野と密接に関連している。たとえば医療機関での医療者間のコミュニケーションを改善する役割を担う人材の育成のためには、経営や管理学など多分野にわたる基礎知識を押さえておくことが必要であると考えている。従って医療コミュニケーション分野の学生も、医療政策・医療経営・医療管理学分野の授業が必修である。

以下に4分野の授業の概要を示す。

- ・医療政策学分野：社会保障の理念と仕組み、現行制度の問題点を把握し、社会変容に対応したもっとも適切な医療システムの構築を目指す教育研究を行う。
- ・医療経営学分野：国民経済に占める医療経

済の位置づけ、医療資源の配分等マクロ、ミクロ両面にわたって医療経済、医療経営を理解し、医療機関の経営問題を中心とした教育研究を行う。

- ・医療管理学分野：診療科・医療チームの編成、作業の効率化等について分析・立案・実施を具体的に検討し、医療システムの円滑な運用と医療事故防止を目指した教育研究を行う。
- ・医療コミュニケーション学分野：医療現場における、医療者一患者関係、患者コンプライアンス、患者満足度、医療従事者のストレスマネジメント等、医療の質と関連する問題の教育研究を行う。

講座の教育体系は図4のように構成されている。

医学基礎科目群と共通基礎科目群が土台

○ 教育体系（平成20年度）



図4 講座の教育体系

になり、その上に必須および選択専門科目群を学ぶことになる。卒業要件は卒業成果物(修士論文)を除いて30単位以上である。

医療コミュニケーション学分野の授業科目群は以下の通りである。

必須専門科目群

- ・医療コミュニケーション学Ⅰ：医療コミュニケーション学分野の基礎的な知識や技法を扱う。医療の対象の健康行動についての理解を深める。医療の場におけるコミュニケーションの特徴、阻害要因、医療コミュニケーションと医療の質との関係について理解する。異文化コミュニケーションについて理解する。医療スタッフとしての自己理解を深める。医療現場でのコミュニケーションの問題とそ

の対応をロールプレイで体験的に理解する。

- ・医療コミュニケーション学演習1, 2：医療コミュニケーション学分野の研究テーマを設定した学生を対象に、卒業論文の指導を行う。

選択科目群

- ・ケアコミュニケーション学：患者の治療を効果的に行うために必要なコミュニケーション技法について論じる。ケアを提供する際の基本的な6段階のアプローチについて理解する。医療従事者のストレスマネジメントについて理解する。診療現場での臨床を通してケアコミュニケーションを理解する。患者および医療従事者をライフサイクルの観点から理解する。
- ・医療コミュニケーション学Ⅱ：医療マスコ

ミュニケーションについて扱う。医療情報の種類や、情報をどのように流すかによって、結果に大きな差が見られることを学ぶ。メディア・リテラシーについて学ぶ。

・病院コミュニケーション論：病院という組織や建物の内部に固有なコミュニケーションの特徴や、効果的技法について扱う。心理テストや箱庭と描画の実施で医療スタッフとしての自己理解を深める。病院のカンファランスを見学する。対応が困難な患者や家族への理解を深め、望ましい対応について検討する。

医療コミュニケーション分野の研究テーマ

医療コミュニケーション分野のゼミナールを受講する学生が対象である。学生は興味や関心を生かしながら医療コミュニケーションと関連するテーマを選択して、ゼミナールで指導を受けながら成果物を完成させる。学生の興味やバックグラウンドが異なっていることもあり、成果物のテーマは多彩である。

以下に医療コミュニケーション分野の卒業生の成果物のテーマをあげる。

「医療コミュニケーションを妨げる曖昧な言語表現について」

「医療に対する相談・苦情の分析」

「医師への謝礼問題を通じて患者・医師関係を考える」

「医療安全に関する組織風土尺度(医療安全)の開発」

「コミュニケーションツールとしての問診表の可能性について」

「新人看護師が抱える職務上の主観的ストレスおよび早期離職行動の関連要因の検討」

「新人看護師の自我状態と心理的ストレス反応との関連について」

「自我状態の透過性調整力と職業性ストレスとの関連」

「医師説明において患者メモが理解度に及ぼす影響に関する実証的研究」

「アサーションを用いた新人ナースの効果的なストレスマネジメントについての検討」

「看護職に対する適切な相互表現トレーニングプログラムの有効な枠組みに関する研究」

「病院職員の自我状態と職業性ストレスとの関係について（病院職員間のストレス状況の比較）」

「看護基礎教育における事事故例を用いた安全教育の教材作成の試み」

「臨床看護師を対象としたプリセプター教育支援プログラム構築に関する基礎的研究」

「我が国の難病患者のコミュニケーションに関する文献的考察」

「新人看護師の早期離職にかかるストレス要因についての研究」

「A 病院新人看護師のストレス状況についての検討」

「肝臓移植におけるインフォームド・コンセント及び患者と医療従事者のコミュニケーションに関する検討」

「看護職員の透過性調整力とストレス状況についての検討」

「看護職のコミュニケーションスキルと自我状態の関連性」

「サークルドローイングとストレスに関する基礎的研究」

おわりに

医療経営、医療管理、医療政策のあらゆる場面において医療コミュニケーション能力が要求される。高齢者の増加に伴う医療費の増大、医療者の過重労働や疲弊、患者の権利意識の増大や医療訴訟の増加など、医療の現場では新しい事象や問題が絶えず生起しており、医療コミュニケーション学の守備範囲は広い。これらの問題に対処する上で役立つ知識や技法を、効率的に教授するためには、カリキュラムの普段の見直しが必要と思われる。